

KODAK Color Control Patches

LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



10 14  
子孫の守り分

特別  
~5  
6087





45  
15  
6087

信州小諸  
丸屋右三郎  
町

亭



そと之くは月か批切と志終  
いそ中も深うけりてはかちん  
梅路り初ととゆき架部  
仙流破月流かき中  
常ゆらうは馬のらりる  
吾は安らけりてゆき松其居



是は及母の争ふに其處に此  
所より一寺を興せしむに  
一法を興せしむに法を  
せしむ海内を興せしむに  
ちしむ一寺を興せしむに  
一寺を興せしむに法を  
孝婦と武山北百梅子坊に

素經昇虎の袖より坊に  
一法を興せしむに法を  
一寺を興せしむに法を  
一寺を興せしむに法を  
一寺を興せしむに法を

正徳丁卯秋

原繁





正月廿五日

麦村下の會

蓮葉下 一色多し 長島

乙由

氷 一 ありふ 澤 乃 ち 翁

杜菱

沢 や っ 霧 と 夕 影 と 語 る

曾北

若 々 や ち ん ち ん 洗 濯 の 所

夜白

持 之 七 夏 七 月 七 朝 一 日

彭里

お 山 ぼ 免 々 草 と 振 露

加丁

風 土 記 も じ ゑ け り あり け り け り

春波

ち ゐ れ 鏡 鏡 只 磨 々 や ろ

岸虎

清 白 っ ぬ 々 春 の お も り あり け り

杜莫

清 ち ゐ れ 花 一 乃 ち 河 川 舟

東棠

空 々 ち ゐ れ 晒 の ち ゐ れ 七 け り

英士

ち ゐ れ や ろ 清 高 燈 あり 七 け り

八至

お も れ 合 窓 乃 乃 ち あり け り

柳玉

照 之 ち ゐ れ 七 け り 七 あり け り

乙香



切敷とてはしるはこころしと  
梅五

之麻年よまのか船争く  
白毛

結風も通ぬはねはなは  
曾夫

麻もこやまふの老僧  
芦文

あまれはまきまきけり  
素道

みほらんとておとと風の  
漁江

あまのこはしるはなは  
八菊

伏ア〜まきまき  
糸止

二

まきけりまきとまき〜  
糸止

ひとり位居の麻よ  
不孤

くつはしるは〜風乃  
枇杷

松もまきまき〜  
糸止

悪口れ二階まき〜  
梅五

あまのこはしるは〜  
祖翁

あまのこはしるは〜  
曾夫

あまのこはしるは〜  
乙風



修らぬにやし陸子乃うつくし  
執筆

おとす来ぬしこりあもきま( )  
由

風呂あもあらもけ締のかまこ  
菘

初う又よれ山乃多新  
如

夕月七四五白影乃きうあ  
棠

鞠とさうぬ柳う架るあ  
波

二  
混掃とよあ知る居て管さう  
止

念者うまうさうさう  
秋

書組乃流七遠のかつたは  
孤

河れ筋あうさうと囃帽  
小

信持まやと小信子ふさう  
白

備へとこゆとかけれ筆  
道

五月ふれ合ぬ磨り吹く  
虎

洲つさやれさうなちう  
玉

養父入乃博とく川川  
毛

川七ちうのけも合源の首  
葉



下は4うまの蒲団乃ちとかり  
 行へりしはく新まうけり  
 乃とつと4つとまてまふとふと  
 他所へゆかぬ中の跡を  
 誰のたと追ちゆかぬあはれもの  
 一つとつとまてまふとふと  
 音はなぬませへへあまこ  
 赤きとくくは後ふりといは  
 互 以 治 文 莫 希 士 丁

三

やりてと音と出示とあはれ  
 袖へこれ月悟眼とぬるぬ  
 新第4段右乃包根と刺立  
 一糸長ぬ名と月とやとく  
 白山段伊の一里不むた  
 心なれるあま子らといは  
 いろねとぬる服鏡とぬる  
 利いりてまふやと新葉と飽  
 以 前 着 夫 北 里 弦











久しむと見たり乃る事と講しり  
 手  
 裸しり流し盟らいたん  
 里  
 夕景を戸に眺むるにうけり  
 棠  
 子多しおる境もよふ事  
 互  
 かく流るるありし流を乃時  
 由  
 梅は空に居やん塵も即  
 孤

追加

今季に押分るるに柳を  
 其  
 秋乃可屋上の移りしに  
 其  
 名月や柳の枝とて一かく  
 嵐を  
 庭くると一やきくや雪のかと  
 去来  
 大糸巾着はあまの糸は  
 文州  
 後川乃原を踏破し  
 涼菟  
 牛所はあまの月夕は  
 去来



凡そふりし不慮ふ常うれ  
杜若

馬士垢歌乃句なき一電比呼  
岸虎

くくひまの乳母もあはれり冬乃梅  
蘭輪

あゝくろく小孫もあはれきく相小  
如之

根乃葉海きく中ぬふや早れ遊  
坐来

夢乃口乃積徳語一蒲巾  
東里

つろくせれく小みわけあり杜若  
巴青

畑人れゆ民とあはれくつる香  
白圖

野村を左波うらりやの峰  
北枝

そんあはれくくい海ぬあ紫小  
常平

踊子や歌のちいもとひうけは  
島洗

涼くさや障子さくく水の音  
枝鶴

坊と子れ又燈籠一木葉漬  
里朝

被園と云やまゆくの山燈しこる  
如本

大何くも一葉れくひやうされ種  
具行

アまは乃人葉やう一杜若  
自勉



そらつたあともうに織目 希田

むせくを後のまのねに取まて 射堂

夕や青さるる夜さぬや鞠子の 五世

影はほく山崎あふ乃くはうが 江妻

湖は白乃裾子うねるいれ かちよ

中よ中野男むすみの垣うん 井洲原

夕返乃身まうとけり架二の里 可之

去る可や格抄乃中子啼陸 麻父

柳さるる津き名さうり 鶴 虎梅

釣竿乃子籠も雪をえちんけ 古道

それ存無塚も尺中のね狐いれ 巨勢

朝起乃茶片のりさうかの葉 宗階

物乃噴火すくはり明も梅うる 玉芽

心乃ねまをれと城やまをれ可 信之

経川は中解うら火焼が 後川

十月乃まき江流や梅さうり 井 芦花



まつりや歌白りや侍跡の 古山

ゆきかきけりあしぬ影やこと州 大和 千代

秋さりやまゝの葉かゝるのさる燈の夜 免取

初余月日鏡くさすりて 陸の里 藤由

あるまゝの布くさるゝ ちあね 百海

ゆつねをりて 戸くさるゝ ちあね 井外

あまうゝ鏡とたうきとやわやま 柳舟

梢くさり上りて 凡くあはれ懺くさる け谷

やまのりてもろれ保ち葉より 明山 曾北

かつらみ乃ゆと起るや新の 柳 浮石

あかかぬ 帰る鏡よりまはれ月 巳朴

あまのりてもろれ保ち葉より 明山 琴巻

綿つゝやあし中の初めは あり 冬酸

らふ秋乃は 鏡よりまはれ月 岷言

けまを葉よりあや子 鏡 亥秋

あまうゝ鏡とたうきとやわやま 柳舟 菊秀



富士の嶺を望むにうき浮世の心 梅治

新しきやまをゆくは身を遠くあり 草目

乳のきくは枝くもなり一なる 入塔

ふちをわたりてゆくはさうれ 秋至

雨乃すしとてかやとて 常夏

音のあはれとて身は 芦花

わたりぬるは 雲雪

やどりぬるは 夏推

清らかなるは 仙舟

うきとて 斤石

又月夜 繁葉

梅の香 戸涼

くさば 冬海

影の 門窓

秋の 百川

白川 涼窓



正氣の心持なり  
 此係唯乃袖の  
 志の心持なり  
 切の心持なり  
 尋常の心持なり  
 門前燈の心持なり  
 白乞の心持なり  
 乙の心持なり

志士  
 相比  
 後尺  
 洞也  
 素道  
 畔古  
 温故  
 五升

正氣の心持なり  
 此係唯乃袖の  
 志の心持なり  
 切の心持なり  
 尋常の心持なり  
 門前燈の心持なり  
 白乞の心持なり  
 乙の心持なり

翔白  
 相舌  
 朱唇  
 秋白  
 柳店  
 夏林











暁のなかにあはれなる秋の夜を  
かきとらふ心はなほ  
あはれなる秋の夜を

柳石居



延享四年仲秋  
月日

延享四年仲秋

書林

京寺所二條上所井筒屋在之  
江戸はるかにあはれなる秋の夜を  
板



